

NMSH Topics 30

VOL.

June 2019

今月の 院長のイチオシ

脳神経内科／脳卒中集中治療科

多数の専門医が24時間体制で脳卒中診療を担当

血管内治療やt-PA治療も迅速に対応

脳神経内科は、脳梗塞、脳出血などの脳血管障害から、パーキンソン病、アルツハイマー型認知症、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、多発性硬化症や重症筋無力症などの神経免疫疾患、脳炎・髄膜炎などの神経感染症、ギラン・バレー症候群、筋ジストロフィー、多発筋炎などの末梢神経・筋疾患、てんかん、頭痛などの発作性疾患まで、神経疾患全般を取り扱っています。

当科では伝統的に脳卒中を多く診療しており、脳卒中集中治療科として高度救命救急センターSCU部門に8床を有し多数の専門医が24時間体制で診療しています。2015年からは、担当医が直接電話を受けて応需する脳卒中専用ホットラインを設け、現在では脳卒中の症例数は東京都内でもトップを誇っています。救急搬送後は、MRIや血管造影等の検査後に、迅速に血管内治療やt-PA治療も行っています。当科は特に数少ない日本脳神

経血管内治療学会血管内治療指導医・専門医が4人在籍し、血管内治療に24時間対応できるのが大きな特徴です。昨年は114例の血栓回収療法を行い、大学病院では全国でトップです。

神経疾患では、神経救急も含め幅広い疾患を受け入れています。必要に応じ、髄液検査はもちろんのこと、筋電図や末梢神経伝導検査も緊急で施行しています。パーキンソン症状や認知症性疾患の補助診断としては、RI検査も含めた各種神経放射線学的検査、神経心理学的検査や嗅覚検査も行っています。パーキンソン病に関しては、レボドパの経腸持続投与療法や脳深部刺激療法後の調整にも取り組んでいます。認知症は物忘れ外来を中心に、地域の先生方からのご依頼に沿える様、早期診断・治療介入、その後紹介元への逆紹介を目指しています。



血管内治療の様子



医局員集合写真（2019.4月撮影）

